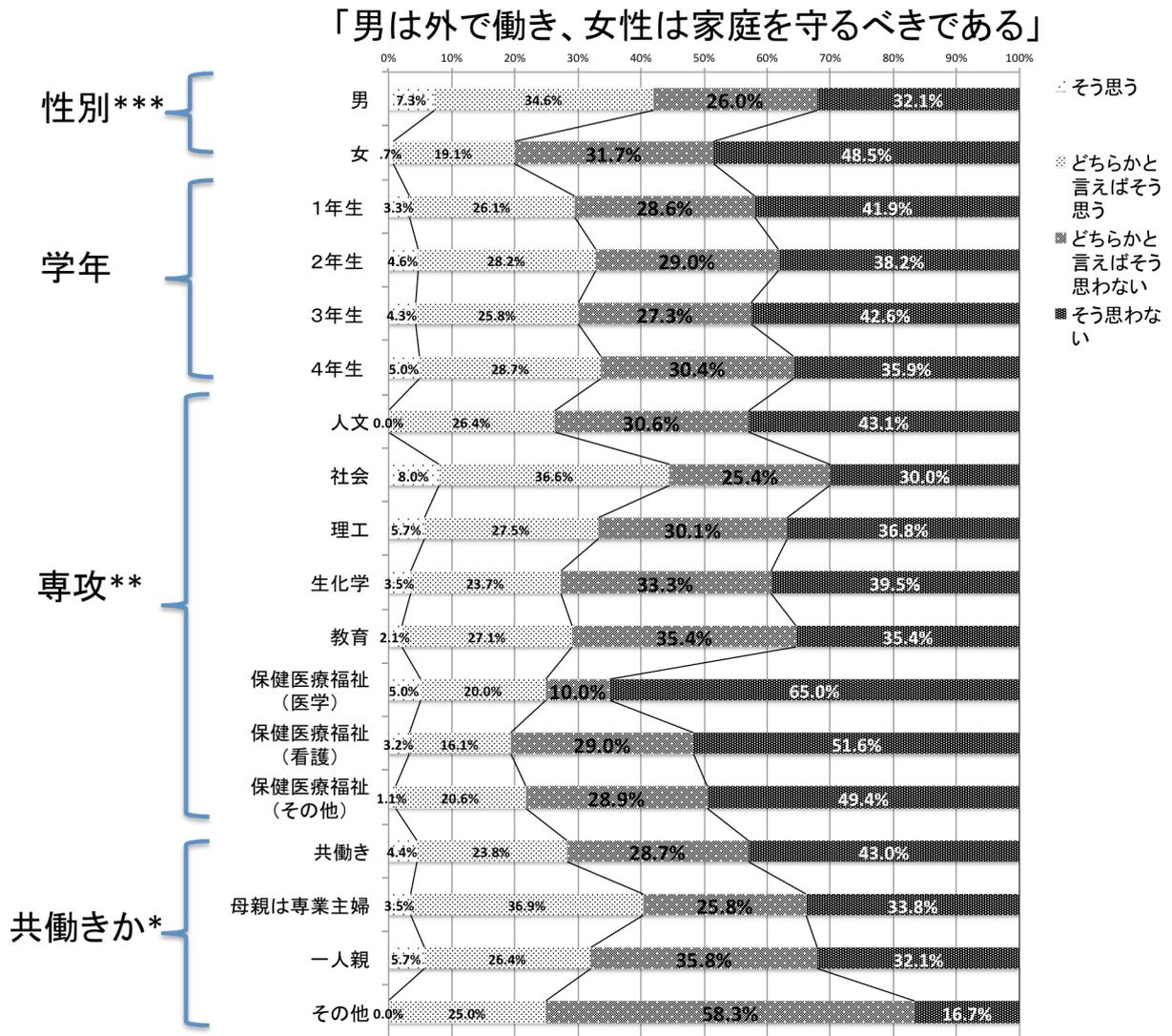


③固定的性別役割認識や男女の扱いの違いの認識に関する傾向

このセクションでは、Q10 から Q13 の男女の違いに関してたずねた質問項目の回答を分析し、固定的性別役割認識や男女の扱いに対する経験、現状認識などを検証してみたい。

図-③-1 固定的性別役割認識の属性による違い (1)



注) χ^2 乗分析を用いた。 χ^2 乗値に関して有意確率 (両側) が***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 。

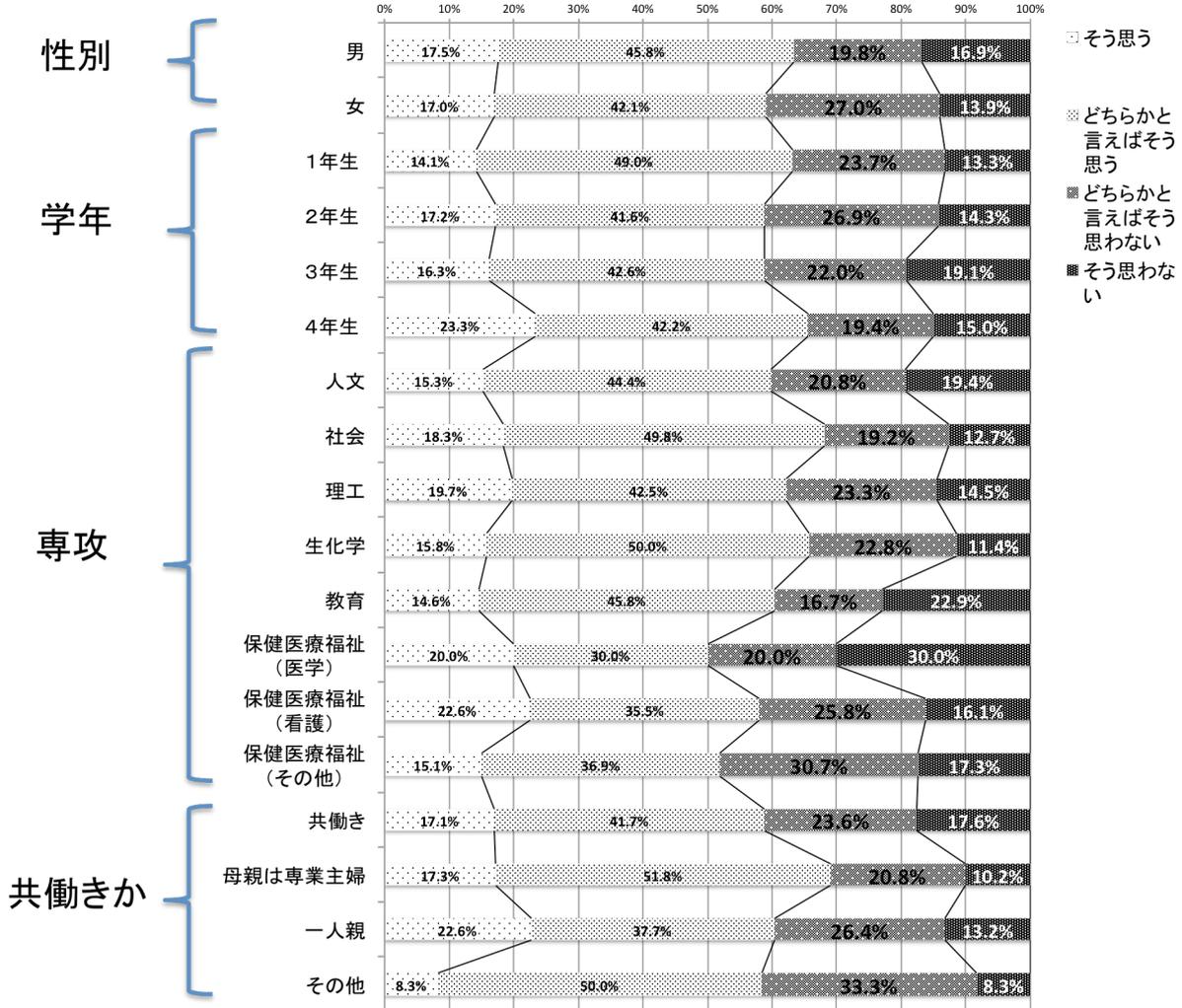
「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」に対してそう思うかをたずねた質問項目の回答の違いは、性別、専攻、実家が共働きかどうかで統計的に有意な結果となった。まず、性別では女子には男子と比較して、否定的な回答が多いことが見て取れる。

専攻では、全般的に否定的な回答が、保健医療福祉系全般で多いが、中でも医学では65%が「そう思わない」という回答であり、否定意見が強い様子が見える。

実家が共働きかどうかによる違いでは、否定的な意見は共働きかあるいは一人親に、母親が専業主婦の場合と比較して多いことが見て取れる。

図-③-2 固定的性別役割認識の属性による違い (2)

「子どもが3歳ぐらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ」

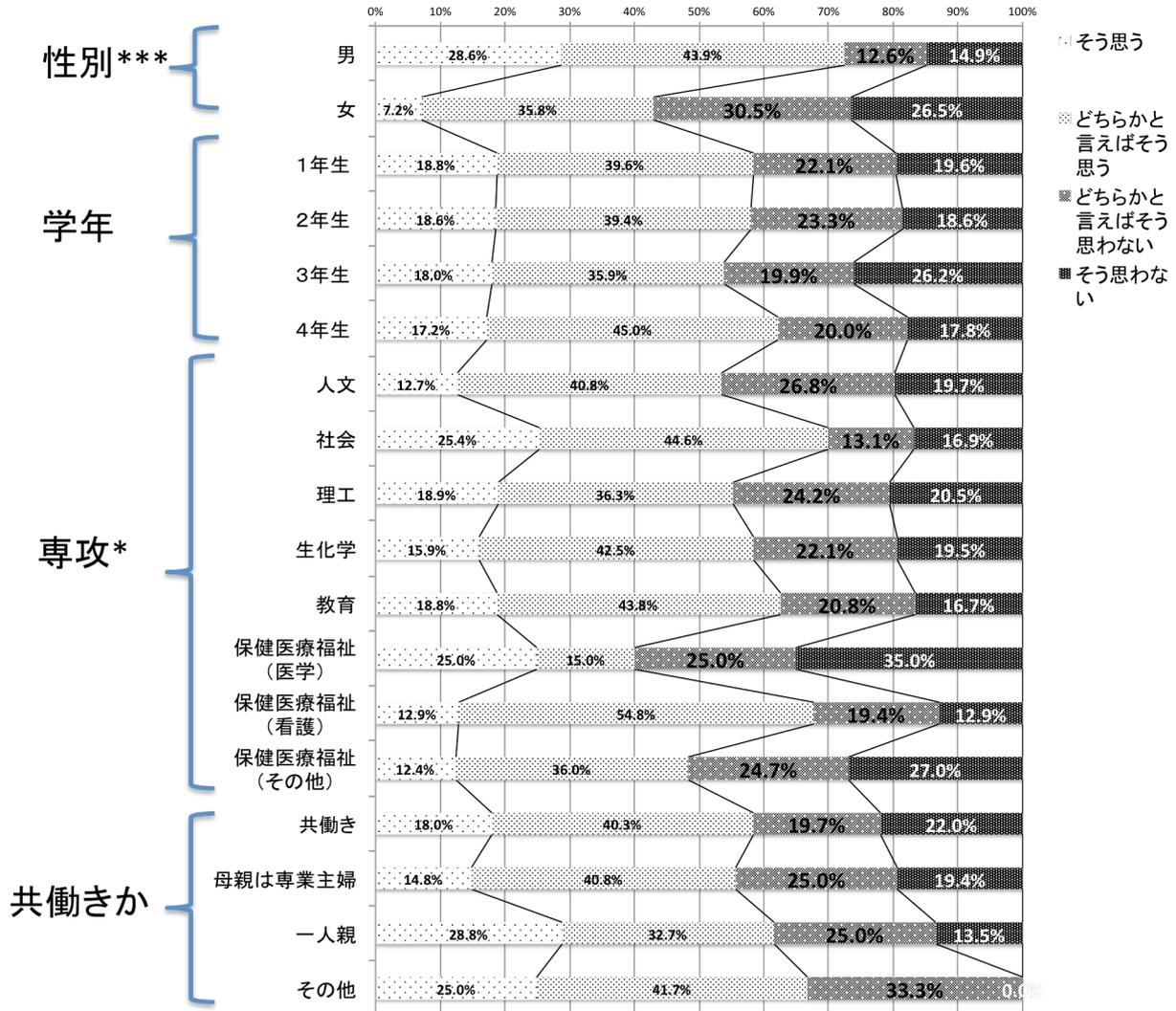


注) 分析にはχ²乗分析を用いた。有意差なし。

「子どもが3歳ぐらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ」に対して、そう思うかをたずねた質問項目に対する回答では、性別、学年、専攻、実家が共働きかどうかによる違いはみられなかった。

図-③-3 固定的性別役割認識の属性による違い (3)

「家庭を経済的に養うのは男性の役割だ」



注) χ^2 乗分析を用いた。 χ^2 乗値に関して有意確率 (両側) が***: $p < .001$, *: $p < .05$ 。

最後に、「家庭を経済的に養うのは男性の役割だ」に対して、そう思うかどうかをたずねた質問項目に対する回答を見てみると、性別、専攻で統計的な有意差が見られた。

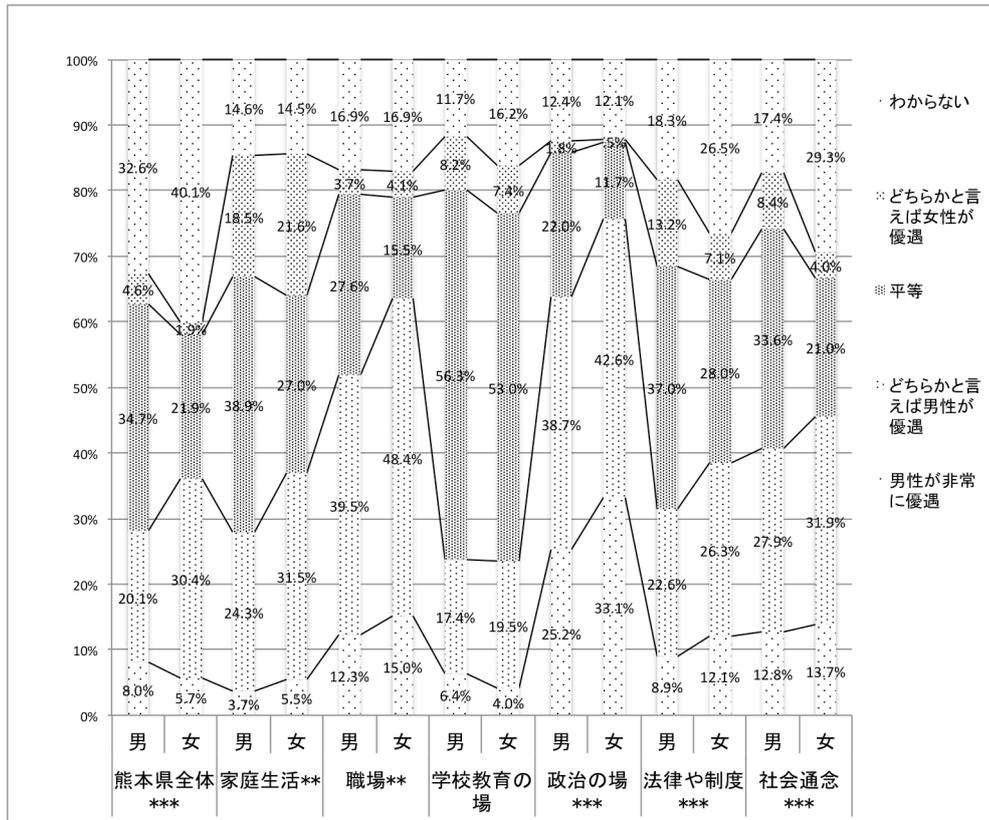
男子は、女子よりも圧倒的に肯定する回答が多い。

専攻別では、否定的な意見が医学系で多く、一方で看護系では肯定的な意見が多い。社会系でも肯定的な意見が多い。看護系には女子の、社会系では男子の回答者が多い傾向にあるにもかかわらず、看護系に関しては、女子の一般的に否定的な回答が多い傾向とは反すると言える。ここには、男女だけではなく職業専門分野で特徴的な考え方の違いが表れていると言えるのかもしれない。

固定的性別役割認識に関して、全般的に男子に根強い様子が見受けられる。また、専門分野による傾向の違いも見えてきた。生まれ育った環境や先輩の後ろ姿が性別役割の認識に影響を与えていることが感じられる。

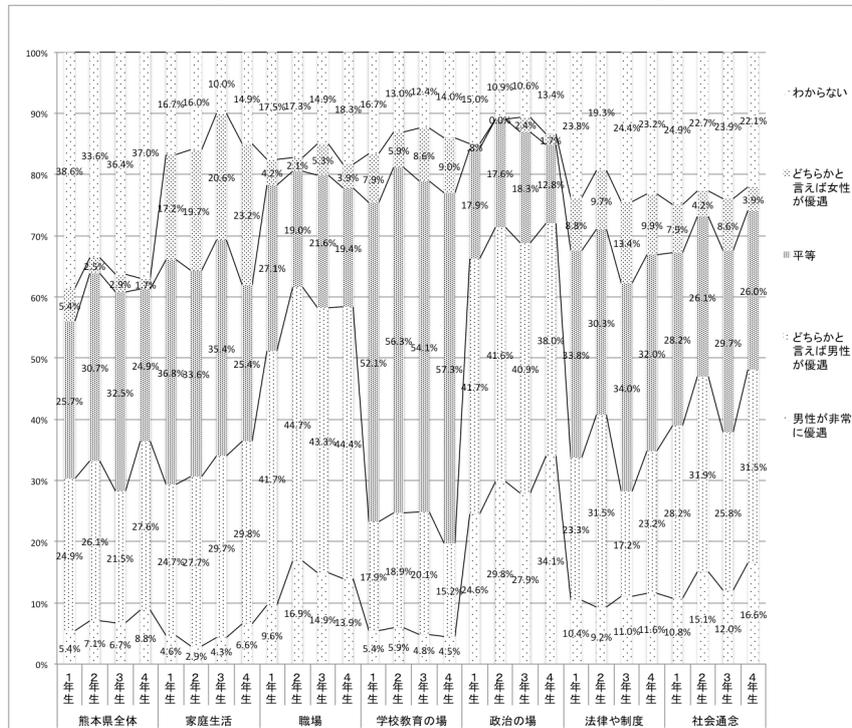
次に、男女の優遇の違いの認識や扱いの違いを感じた経験などについて見てみる。

図-③-4 場面での男女の優遇の違いの認識の性別による違い



注) χ^2 乗分析を用いた。 χ^2 乗値に関して有意確率(両側)が***: $p < .001$ 。

図-③-5 場面での男女の優遇の違いの認識の学年による違い



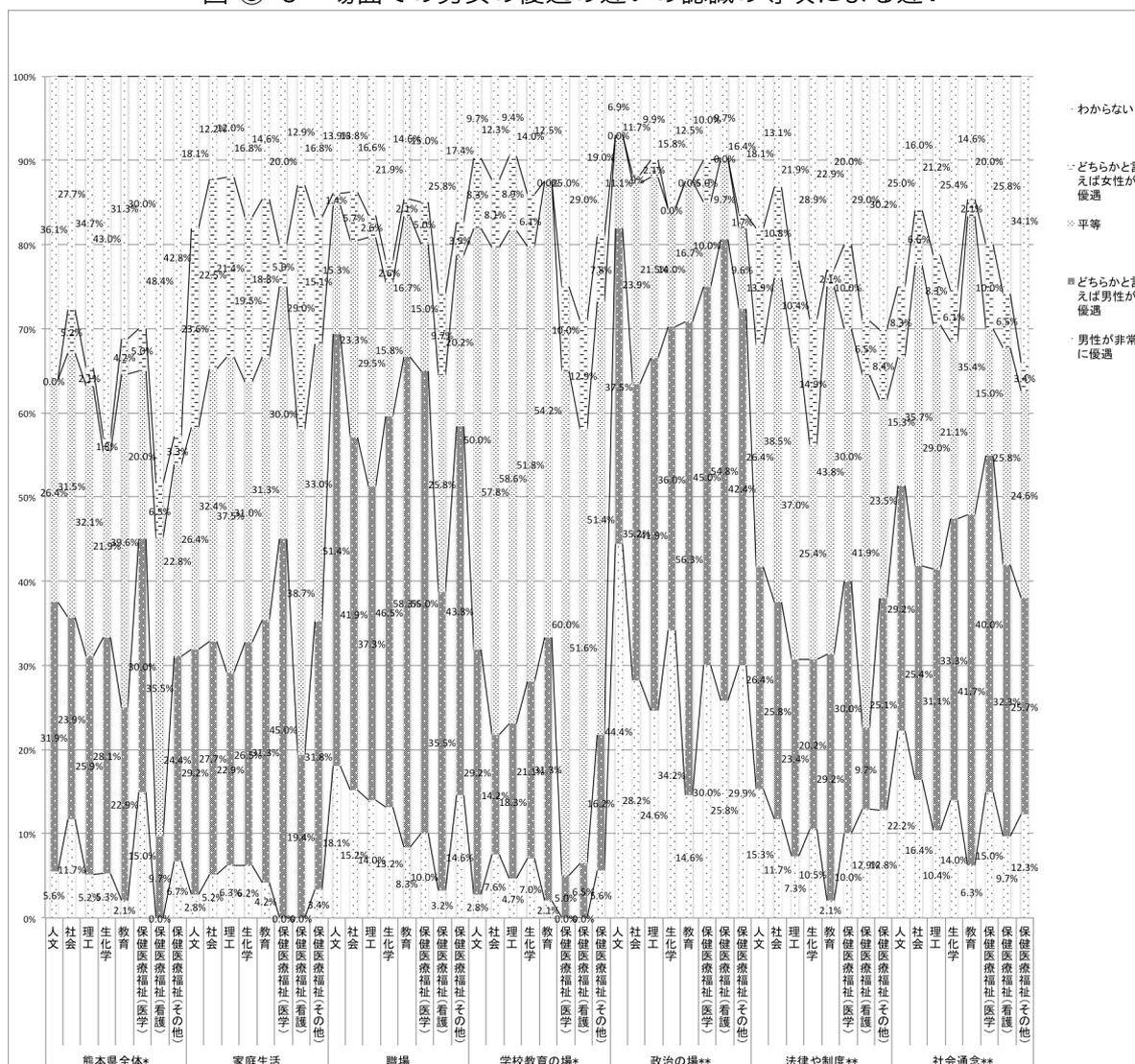
注) χ^2 乗分析を用いた。有意差なし。

様々な場面で「男女の地位は平等だと思うか」をたずねた質問に対する回答の男女の違いを見てみると、「学校教育の場」を除く全ての場面で統計的な有意な差が見られた。

全般的に、女子では平等の回答は少なく男性が優遇されているという回答が多い。「政治の場」で男性が優遇されているという回答は男女とも非常に多いが、女子はさらに多い。若干「女性が優遇されている」という認識が高いのが「家庭生活」である。

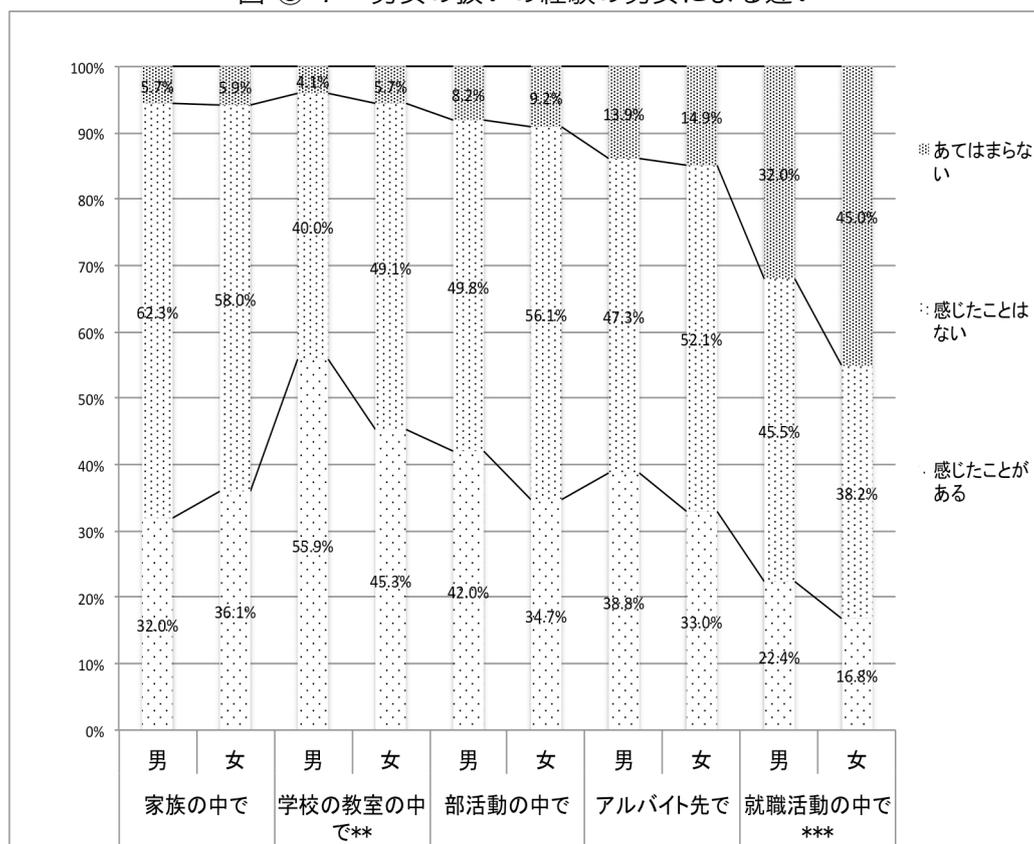
学年ではいずれの場面でも統計的に有意な差は見られなかった。

図-③-6 場面での男女の優遇の違いの認識の専攻による違い



最後に、専攻による違いを見てみると、「熊本県全体」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度」「社会通念」で有意な差が確認できた。熊本県全体では医学系に男性が優遇されているという回答が多い。「学校教育の場」については、教育系で「男性が優遇されている」という回答が多く、学校教育の現場に携わる立場として、職場としての現状も含めた認識であることが想像できる。「政治の場」については、人文系で際立って男性が優遇されていると言う回答が多い。また、「法律や制度」に関しても、人文系と社会系で他の専攻よりも高い傾向が見える。「社会通念」では、医学系と人文系で男性優遇の回答が多い。医学系、人文系ではより批判的な現状認識がされている様子がうかがえる。

図-③-7 男女の扱いの経験の男女による違い



注) χ^2 乗分析を用いた。 χ^2 乗値に関して有意確率(両側)が***: $p < .001$, **: $p < .015$ 。

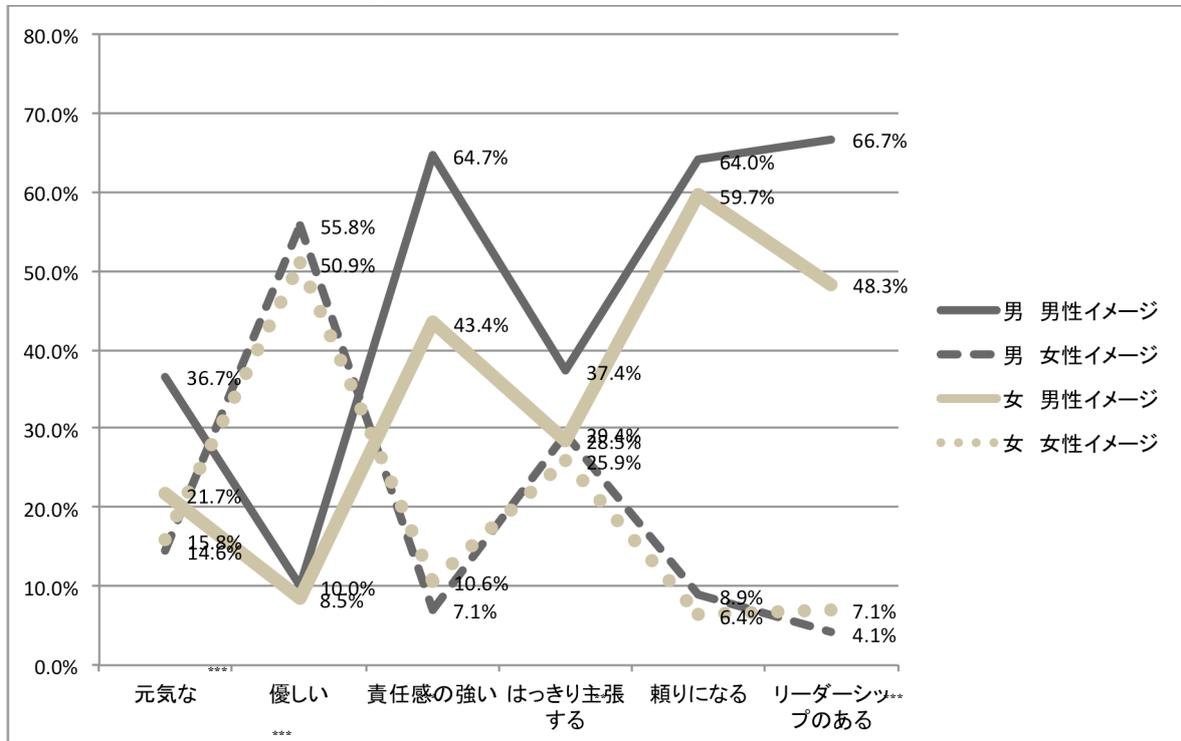
「家族の中」「学校の教室の中」「部活動の中」「アルバイト先」「就職活動の中」でこれまで男女の扱いに違いを感じたことがあるかどうかをたずねた質問に対する回答の男女間の違いは、「学校の教室の中」と「就職活動の中」で統計的に有意であった。

「学校の教室の中」では、男子の方が女子よりも「感じたことがある」という回答が多かった。「就職活動の中」では、あてはまらないという回答の差も大きいですが、感じたことがないという回答についても、男子が7ポイント高い。

扱いに違いを感じたことがあるとして、それに伴う価値や評価をたずねるものではないが、これらの2つの場面で経験そのものの認識としては、男女間の違いがあると理解できる。

このセクションの最後に、言葉と関連する男女のイメージについてたずねた質問（Q11）の回答を検証する。

図-③-8 言葉のイメージの性別による違い



注) χ^2 乗分析を用いた。 χ^2 乗値に関して有意確率(両側)が***: $p < .001$, **: $p < .01$ 。

特定の言葉（形容詞）に対して、男性のイメージ、女性のイメージあるいはどちらともいえないかをたずねた質問に対する回答の男女別の違いをみたところ、「元気な」「責任感の強い」「はっきり主張する」「リーダーシップのある」について有意な差があった。いずれについても、男性的なイメージであるという回答が、女子では少ない傾向にある。「責任感が強い」と「リーダーシップのある」という形容詞は、女性のイメージであるという回答は女子に多いが、「はっきりと主張する」については女子でも女性のイメージであるという回答が男子よりも少ないのが特徴的である。

統計的に有意な違いがあるものの、全般的な傾向としては共通しており、「責任感の強い」「リーダーシップのある」というようなリーダー的立場を表現するような言葉については男性のイメージとして共有されている様子が見える。